

2017年9月12日

各 位

会社名 株式会社 キャンパス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号:4575 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長  
加登住 眞(電話 055-954-3666)

### CBS9106(SL-801)に関するESMO年次総会での発表について

当社が創出し2014年12月に米国Stemline Therapeutics Inc.(以下「Stemline社」)へライセンス導出した抗癌剤候補化合物CBS9106(同社における開発コード:SL-801)について、2017年9月8日から12日までスペイン・マドリッドで開催された欧州臨床腫瘍学会(ESMO、European Society For Medical Oncology)年次会議においてポスター発表がおこなわれましたので、その概要をお知らせします。

今回の発表は、現在Stemline社が実施している固形癌を対象としたSL-801臨床第1相試験の途中経過報告です。

同臨床試験の内容は下記(ClinicalTrials.gov)をご参照ください。

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT02667873>

掲示されたポスターはStemline社ウェブサイトに掲載されています。

<http://www.stemline.com/scientific-presentations.asp>

SL-801

Ongoing Phase 1 Trial of SL-801, a Novel XPO-1 Inhibitor, in Patients with Advanced Solid Tumors; Interim Results. ESMO 2017.

(Posterをクリック)

今回のポスター発表では、第6コホートまでの24症例について、以下の報告がなされました。

- 被験者の分布(年齢、性別、癌の種類、前治療歴、KRAS変異の有無、パフォーマンスステータス、フォローアップ月数)
- 安全性・忍容性データ
- 臨床活性データ(レスポンス、投与期間)
- 代表的症例のCTスキャン画像
- 薬物動態データ

これらを踏まえて同社研究グループは、結論を次のようにまとめています。【注:当社による参考訳です】

#### 安全性

- ✓ 安全性と忍容性は容易に管理可能な内容で、これまで用量漸増スケジュールの修正は不要であった
- ✓ 40mg/日(第6コホート)までの時点でDLT(容量制限毒性)・MTD(最大耐量)には到達していない
- ✓ TRAE(治療に関連する有害事象)の多くはグレード1~2の軽微なもので、グレード4・5の重篤な毒性は報告されていない
- ✓ 用量漸増試験を継続中である

#### 有効性

- ✓ 用量漸増試験の途上であり、ヒトの治療における理想的な用量は未だ確定していない
- ✓ 37.5%(24症例中9症例)でSD(安定、癌の大きさがほぼ変わっていない状態)を達成

✓ 前治療歴の多い神経内分泌腫瘍の1症例で20%の腫瘍縮小効果が確認された  
薬物動態

✓ 用量に依存した曝露の増加が観察された

臨床試験の現状と次のステップ

✓ 用量漸増試験を継続し、現在は第7コホート(45mg/日)の組み入れを実施中

✓ 容易に管理可能な安全性・忍容性がこれまで示されている

✓ 再発/薬剤耐性の腫瘍を含む複数の症例でSDを達成した

✓ 来年には安全性、薬物動態、薬力学、有効性に関するアップデート報告を予定している

✓ 臨床試験の追加を計画している(単剤、併用、血液癌など)

本件による当期業績への影響はありませんが、導出先Stemline社におけるCBS9106(SL-801)開発の着実な進捗を示すものであり、現在当社が進めているCBS9106の日本・中国・台湾・韓国(Stemline社へのライセンスでは除外されています)エリアでのライセンス導出交渉への好影響が期待できるほか、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与するものと当社は考えています。

以上